

Priority Issue 9 to be Tackled by Using Post K Computer "Elucidation of the Fundamental Laws and Evolution of the Universe" KAKENHI grant 17K05433, 25870168

第2回HPC-Phys 勉強会@理研和光 2018/12/01

大規模並列計算用原子核設模 型コードの開発



Center *for* Nuclear Study

清水 則孝



東京大学大学院理学系研究科

附属原子核科学研究センター

Outline

- 原子核物理における殻模型計算とは
- KSHELLコードの開発
 - M-scheme 表現
 - コード開発・基本アルゴリズム・ランチョス法
 - 並列性能
 - 行列・ブロック化による高速化
- まとめ



原子核実験では、例えば、、

C. Petrache *et al.,* in prep.





理論(殻模型)との比較・議論 実験研究者に強い需要

原子核殻模型計算における配位混合

• 殻模型計算における波動関数



 $|\Psi\rangle = v_1|m_1\rangle + v_2|m_2\rangle + v_3|m_3\rangle + \cdots$

配位の数(Mスキーム次元)は中重核領域で 急激に増加する。

シュレディンガー方程式を解く
$$H | \Psi
angle = E | \Psi
angle \qquad | \Psi
angle = \sum_{m} v_{m} | m
angle$$

大次元疎行列の固有値問題に帰着

ランチョス法が効率的

 $\sum_{m'} \langle m | \mathcal{H} | m' \rangle v_{m'} = E v_m$

現在のスパコンでは、1000億次元程度の計算が可能。

殻模型計算のスキーム



¹³⁶₅₆Ba₈₀: 設模型計算 vs. 実験值 with (

with C. Petrache et al.





Ref. UNEDF SciDAC collaboration

原子核殻模型のハミルトニアン

特定の質量領域用にチューンされたハミルトニアンが様々に公開されている。

⇒ 実験解析用にも多用される。 使いやすい殻模型計算コードの開発が重要。

核子は平均場中における有効相互作用を通して運動する

- 二体行列要素 (TBME)

$$H = \sum_{a} \varepsilon_{a} n_{a} + \sum_{a \leq b, c \leq d, JM} V(abcd; J) A^{\dagger}_{JM}(a, b) A_{JM}(c, d)$$

 $a = (n_{a}, l_{a}, j_{a})$ 一粒子軌道を指定するインデックス

 $n_a \dots \text{number operators of orbit } a \qquad n_a = \sum_{m_a} c_{a,m_a}^{\dagger} c_{a,m_a}$ $A_J^{\dagger}(a,b) = \frac{1}{\sqrt{1+\delta_{ab}}} [c_a^{\dagger} \otimes c_b^{\dagger}]^{(J)} = \frac{1}{\sqrt{1+\delta_{ab}}} \sum_{m_a,m_b} \langle j_a m_a j_b m_b | JM \rangle c_{a,m_a}^{\dagger} c_{b,m_b}^{\dagger}$

どのくらいの配位をとりあつかえるか?



世界最大級の大次元対角化計算(10¹¹次元)に成功!

N. Tsunoda, T. Otsuka, N. Shimizu, M. H.-Jensen, K. Takayanagi, and T. Suzuki, Phys. Rev. C 95, 021304R (2017)

モンテカルロ殻模型

重要な「状態」だけを選び出す東大グループ独自の計算手法



次元の制限を超えられるが、とり扱いが難しい。 今回はとりあげない。

殻模型計算コードKSHELLの開発

大次元・実対称・疎行列の固有値問題を解く。最小固有値近傍のみが必要

- ランチョス法、(クリロフ部分空間法)

- 大次元の問題にチャレンジ
 ハミルトニアン行列の行列要素はオンザフライ で生成、ベクトルのみメモリーに保持
- PCから京・ポスト京まで単一のコード、使い
 勝手を実現。

https://sites.google.com/a/cns.s.u-tokyo.ac.jp/kshell/

Fortran 90/95, 20,000行



KSHELLコードの公開・普及中

公開済みの殻模型計算コードは複数あるが、並
 列計算可能なものはなかった。

– c.f. OXBASH 1985, ANTOINE, NuSHELL, BigSTICK, …

- ・ 並列性能と使い勝手を両立したコードKSHELLを 開発、公開。
- 講習会を随時開催
 - 東大本郷(清水)、理研仁科センター(清水)、埼玉大(清水)、ケープ
 タウン(角田佑)、U. Oslo (J. Midtbo), TRIUMF(J. Midtbo), ...
 - 実験研究者の需要が強い。

ハミルトニアン行列のMスキーム表現



ハミルトニアン行列の固有値問題を解く $H_{ij} = \langle m_i | H | m_j \rangle$

ハミルトニアン行列は疎行列。なぜ?

ハミルトニアンは2体相互作用:

$$H = \sum_{ij} T_{ij} c_i^{\dagger} c_j + \sum_{ijkl} V_{ijkl} c_i^{\dagger} c_j^{\dagger} c_l c_k$$
例: 2体相互作用では $\langle m_1 | H | m_3 \rangle = 0$

殻模型におけるハミルトニアン行列

		IJ		
Nuclide	Space	Basis dim.	Sparsity	Storage (GB)
²⁸ Si ⁵² Fe ⁵⁶ Ni	sd pf pf	9.4×10^4 1.1×10^8 1.1×10^9	6×10^{-3} 1×10^{-5} 2×10^{-6}	0.2 720 9600

⁴⁴Ti in pf-shell (4000次元)



行列要素全てをメモリーに保持す ることは困難

中计称 市行列

オンザフライ生成による行列・ベク トル積の実現、 最低2本のランチョスベクトルをメモ リーに保持する。

ランチョス法:アルゴリズム

 初期ベクトル u₀ • 反復する k=0,1,2,... $a_{k} = u_{k}^{T} H u_{k}$ $u'_{k+1} = H u_{k} - a_{k} u_{k} - b_{k-1} u_{k-1}$ Gram-Schmidt 」Gram-Schmidt直交化 $b_{k} = \sqrt{u'_{k+1}^{T} u'_{k+1}}$ 規格化 $u_{k+1} = u'_{k+1} / b_{k}$ $T = u_{i}^{T} H u_{j} = \begin{bmatrix} a_{0} & b_{0} \\ b_{0} & a_{1} & b_{1} \\ b_{1} & a_{2} & b_{3} \\ b_{2} & a_{3} & b_{3} \\ b_{3} & \dots & \dots \end{bmatrix}$ 3重対角行列 T を対角化する。

注意:数学的には、 $u_i^T u_j = \delta_{ij}$ が保たれているはずである。 しかしながら、反復を繰り返していくと、丸め誤差によって 直交性が失われていく。

▶ 再直交化が必須。Thick restartが有効。

ランチョス法の収束性



9 sec/iteration @FX10 240 nodes (SPARC 64 IXfx, 3840 cores), total 35min.

KSHELLのアルゴリズム:ビットによる配位の表現



m	0	1	2	3	4	5	6	7	Decimal num.
m ₁ >	1	1	0	1	0	0	1	0	75
m ₂ >	1	0	0	1	0	1	1	0	105
m ₃ >	0	0	0	0	1	1	1	1	240

「オンザフライ」行列要素生成による行列ベクトル積

ハミルトニアン行列要素 $H_{ij} = \langle m_i | H | m_j \rangle$ の数は多すぎてメモリー に保存できない。

ランチョス法では、行列ベクトル積を実現すれば行列自体は不要。

$$|m_{3}\rangle = c_{4}^{\dagger}c_{7}^{\dagger}c_{3}c_{0}|m_{2}\rangle$$

m	0	1	2	3	4	5	6	7	Decimal num.	
m ₁ >	1	1	0	1	0	0	1	0	75	
m ₂ >	1	0	0	1	0	1	1	0	105	$c_4 c_7 c_3 c_0$
m ₃ >	0	0	0	0	1	1	1	1	240	and and

得られたビット表現の位置を2分法で探索する



Ref. C. W. Johnson et al., Comp. Phys. Comm. 184, 2761 (2013)



陽子側の1体作用 $c_i^{\dagger}c_k \left| m_p^{(\pi)} \right\rangle$ と中性子側の1体作用 $c_j^{\dagger}c_l \left| m_n^{(\nu)} \right\rangle$ をあらかじめ求めておくことで、陽子・中性子相互作用演算を高速化する。

KSHELLにおける並列計算

- 全てのランチョスベクトルをメモリーにのせられれば、再直交化の計算時間は無視できる。行列・ベクトル積がほぼすべての計算時間を占める。
- ・ 行列・ベクトル積をロードバランスよく並列化したい。
 - 対角ブロックは計算量が大きい
 - 分散保持されたベクトルの通信量も 無視できない

KSHELLにおける行列・ベクトル積の並列化 9プロセスの場合: 各プロセスの担当

- 対角ブロックが均等に分散されている。
- 通信量が 2V/√N (V:ベクトルサイズ、N:プロセス数)に抑えられる。
- 再直交化の並列化は自明。

計算速度の向上に向けて

- オンザフライ生成による行列・ベクトル積の実行
 時間がボトルネック
 - より詳細には、2分法によるビット表現の探索

v' = Hv

ブロック化による高速化を試みる。
 (ブロックランチョス法、ブロック櫻井・杉浦法)

$$(v'_1, v'_2, \dots v'_p) = H(v_1, v_2, \dots v_p)$$

ブロックランチョス法

 あるいは、リスタート法を組み合わせて Thickrestart block Lanczos method

a block of vectors V_1 be arbitrary vectors with $V_1^T V_1 = 1$ and $\beta_{-1} := 0$. for $k = 1, 2, 3, \cdots$ do $W := HV_k$ $\alpha_k := V_k^T W$ 行列・ブロックベクトル積 [こよる部分空間の拡張] $T_{k(p-1)+1:kp,k(p-1)+1:kp} := \alpha_k$ Diagonalize $T^{(k)}$ and stop if e_n converges $T^{(k)} = \begin{pmatrix} \alpha_1 & \beta_1^T & 0 \\ \beta_1 & \alpha_2 & \beta_2^T & \\ \beta_2 & \alpha_3 & \ddots & \\ \beta_2 & \alpha_3 & \ddots & \\ & \ddots & \ddots & \beta_{k-1}^T \\ 0 & \beta_{k-1} & \alpha_k \end{pmatrix}$ Reorthogonalize W with $\{V_1, V_2, \cdots, V_{k-1}\}$ $V_{k+1}\beta_k = QR(W)$ $T_{k(p+1)+1:k(p+2),kp+1:k(p+1)} := \beta_k$ $T_{kp+1:k(p+1),k(p+1)+1:k(p+2)} := \beta_k^T$, end for

 $\alpha_i \ge \beta_i$ は $p \times p$ のブロック行列

⁴⁸Cr in pf-shell, 1,963,461 dimension, Xeon 20 cores

ブロックランチョス法による性能向上 -80 Energy (MeV) ⁴⁸Cr in pf-shell, 1,963,461 dimension, Xeon 20 cores 32番目の固有値の収束性 -100 0 400 200 Number of iterations 差 近似固有値と厳密値との 10⁰ p=1 (MeV) p=8 10-5 ΔE 10-10 200 400 0 Number of iterations

ブロックランチョス法による性能向上

ブロック櫻井杉浦法の導入:原子核準位密度の計算

z-Pares libraryによる 櫻井一杉浦法の導入・ 確率的固有値密度推定法 200億次元行列の固有値密度 推定を可能に

$$\rho(E) = \oint_{\Gamma} \operatorname{tr}\left((z - H)^{-1}\right) dz$$

$$\stackrel{\operatorname{Im}(z)}{\overset{\operatorname{Im}(z)}{\overset{\operatorname{Re}(z)}{\overset{\operatorname{RR}(z)}{\overset{RR}(z)}{\overset{RR}(z)}{\overset{RR}(z)}{\overset{RR}(z)}{\overset{RR}(z)}{\overset{RR}(z)}{$$

中性子捕獲反応の理解に重要な物理量。

Ref. N. Shimizu Y. Utsuno, Y. Futamura, T. Sakurai, T. Mizusaki and T. Otsuka, Phys. Lett. B 753, 13 (2016)

Summary

- 原子核殻模型計算
 - 原子核の微視的構造を記述、第一原理計算にも用いられる。
 - 殻模型計算・コードは実験研究者含め多岐にわたる需 要
- ・ 殻模型計算コードKSHELLの開発・公開
 - 大規模並列計算+オンザフライ行列要素生成による大 次元計算
 - ブロック化による性能向上
- Future work
 - 2体カレント、3体力対応などの機能拡張
 - ポスト京にむけて